

2021 NEWYEAR TALK



一般財団法人 防衛技術協会 理事長
横原 伸一

新年あけましておめでとうございます。令和三年の初春を恙なくお迎えのこととお慶び申し上げます。平素、防衛技術ジャーナルをご愛読いただいている皆様、また防衛技術協会の活動に深いご理解とご支援を賜っている皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナ禍で世界中が大混乱に陥り、今なお収束の兆しが見えませんが、一日も早い収束を願うばかりです。

さて、わが国では菅政権が発足しました。安倍政権同様、安全保障体制充実への努力が続けられると考えられます。また米国ではまもなく政権交代が行われますが、安全保障政策、特に対中国政策は厳しい方針が踏襲されるとの見方が大勢のようです。

その中国は、南シナ海、東シナ海、太平洋への海洋進出を活発化させる一方、わが国の防衛費の約4倍ともいわれる軍事費を投入し、軍の量的拡大のみならず、宇宙・サイバー・電磁波領域を担当する戦略支援部隊の創設を始めとするさまざまな近代化に取り組んでいます。さらに、中国国防白書2019で示された「智能化戦争」への対応を目指し、建軍100周年の2027年、「五中全会」で示された2035年を節目にさらなる近代化を進めるようです。

米国は、先に著した「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」で、全領域で米国の独占的な優位さが毀損されつつあり、安全保障上の懸念は中

国およびロシアとの戦略的競争へ変化したとの認識を示しました。そして昨年10月、省庁横断的な方針として「クリティカル・新興技術の国家戦略」を策定し、最先端科学技術開発基盤強化と技術盗用からの防護強化を図る重要技術分野として、先進コンピュータ、自律システム、AI、量子情報科学等の20分野を指定して最先端科学技術の開発を加速させています。

わが国は普遍の価値観を共有する国家群と協力して「自由で開かれたインド太平洋」を目指す外交・安全保障政策を展開しています。防衛省・自衛隊では、陸海空・宇宙・サイバー・電磁波の全領域を対象とした多次元統合防衛能力向上のために昨年度は航空自衛隊の宇宙作戦隊を新編し、令和三年度には一元化した自衛隊サイバー防衛隊の編成、電子戦能力の向上を目指した施策等が計画されています。また島嶼防衛用高速滑空弾の研究、極超音速誘導弾の研究等が行われ、次期戦闘機の開発が開始される等、効率的な任務遂行が可能となる体制構築の努力が続けられています。

一方、最先端技術の多くがデュアルユース技術として発展しつつありますが、裾の広がりとともに技術盗用が表面化してきており、昨年は中国のハイテク企業の米国市場からの締め出し、在ヒューストン中国領事館の閉鎖命令等が行われ、問題が深刻化しています。

わが国でも、経済産業省では従来の技術管理体制強化に加えて中小企業・大学等での管理体制構築のための支援の強化、防衛省では令和三年度に先進技術の各種情報の収集・分析、保全体制の強化が図られるようです。

防衛技術協会は、本年も防衛技術振興と関係各位のお役に立てるよう、最新の防衛技術動向、技術管理体制等を中心に広く調査活動を実施するとともに、防衛技術ジャーナルでは、重要かつ幅広い防衛技術の論説記事に加え、隔週で日米欧の防衛産業のオピニオンリーダーを中心に情報発信が行われる「防衛産業フォーラム」の内容を新たに紹介していきます。

本年が皆様にとって素晴らしい年となることを祈りつつ、今後とも変わらぬご支援とご厚誼をお願い申し上げます。

丑